

## 「あまカラ」細目（一）

増田周子

雑誌「あまカラ」は、「たべもの・のみもの・のたのしい雑誌」と銘打って、事務所を大阪市曾根崎中二の五あまカラ社に置き、昭和二十六年八月五日に初刊発行し、三号からは大阪の菓子司鶴屋八幡にある甘辛社（大

阪市東区今橋五の十）に変更、昭和四十三年五月五日に続二百号をもって終刊号とした、美食専門の月刊雑誌である。発行人・今中善治、編集人・水野多津子、顧問・大久保恒次で、原稿料は無料で、鶴屋八幡の援助のみで十七年間変わらずに続けてきた。

B六版横開き（13×18cm）の、洒落た体裁のポケット用で持ち運びに便利なものであった。その後この型のタウン誌（「銀座百店」）をはじめ、多くのPR誌が発行さ

れた。

食は万人それぞれの好みやこだわりがあつて、それぞれが妥協しない、自己主張の強い文章が、毎号掲載され多くの人に愛され、読まれ続けてきた。

「あまカラ」に掲載されたものは、第一号からの執筆者である小島政二郎編『随筆 あまカラ』（昭和三十一年四月、六月社）、河出書房編集部編『あまカラ随筆』（昭和三十一年、河出書房）、高田宏編『「あまカラ」抄』1. 2. 3.（平成七年十一月～八年一月、富山房）などに再録されている。扇屋正造『あまカラ道中記』（昭和三十六年五月、角川書店）も「あまカラ」に連載されたものである。第一回からの連載をまとめた小島政二郎

『食ひしん坊』（昭和二十九年、文藝春秋新社）は、昭和三十年には第十八版を出すにいたるほど読まれてきた。「あまカラ」の人気の高さがわかるだろう。今回はこの雑誌の目次細目（第一号〜第二十二号）までを紹介する。

昭和二十六年八月五日発行 第一号

表紙

目次

食ひしん坊	小島政二郎	四〇七
歌舞伎手帖	はが・れいこ	八〇九
拳法の極意	吉田三七雄	一〇
西欧の芸術家	吉村正一郎	一一〇
グラスいろいろ（写真付き）		一一〇
双葉会の発足（生菓子の研究）		一一〇
事務所 鶴屋八幡の写真付き		一一〇
葛もちと「福寿」	水野久美子	一五
お菓子のメモ		一六
お店の紹介（写真付き）		一七

『清流』『木専』『南海錦瀉』『さのや』『かぶと』『休利』

船場の花花（ビジネス街に検番）

PUNCHの池にボートを浮かべ 品川 潤

料理紹介（写真付き）

ビルゼンとミュンヒェン

鎖夏献立鈔

あじ五種

清流一掬

卓上風雅

庖丁の技

お酒の樂屋

こおひいのおおひ

おいしい・あじない・うまい・まずい

ビフテキは誰でもおいしく出来ます

『あま・カラ』会員募集

山本茂久

北岡万三郎

八木重一郎

大久保恒次

加納悦三

堤けい子

六場許六

松野忠一

二四〇二五

二五〇二六

二七〇二九

二九

三一

三三

三五

三六

三七

三八

三八

三八

三八

三八

昭和二十六年九月五日発行 第二号

表紙

目次

食ひしん坊 (二)

甘味歷程

ないふ・ふおーく・すぷーん (写真付き)

お店紹介 (写真付き) 『生野』

うなぎの素焼

長崎の菓子

酒のしるし

アンゼリカ

お店紹介 (写真付き)

『アラスカ』『ニューグリル』『今橋つるや』

初秋即席料理「さのや」

夏は洋食冬は鍋

酒癖

お店紹介 (写真付き)

『平野』『幸楽』『正弁丹吾』

胃とともに去りぬ

甘族歡宴 (鎌倉茶話会の話)

桃

東京名物東都乃れん会

新派の手帖

かれー・らいすのつくりかた

『あま・カラ』会員募集

昭和二十六年十月五日発行 第三号

表紙

目次

食ひしん坊 (三)

お酒のことなら少し

思ひ出のふたつ

たべものと踊

たべもの話の泉

私は誰でせう—芸術家と料理—

人生あまから像 (今中富之助)

前田栄三

丸尾長顕

吉村正一郎

はが・れいこ

B

小島政二郎

木々高太郎

福島慶子

天津乙女

吉田みなを

前田栄三

一九〇〜二一

二二〜二三

二四

二五〜二六

二七〜二八

二九

三〇〜三二

三三〜三三

三四〜三五

三六〜三七

三八

三九

四〇〜四一

四二〜四三

四四〜四六

四七

四八

四九

五〇〜五一

五二〜五三

五四〜五六

五七

B・B・B・B 一七

お店紹介(写真付き)

一八〜二四

『点心堂』『ちもと』『OBKグリル』『花外楼』『美々卯』

甘辛談義(一)

二五〜二八

お菓子「菊水」玉子餡

吉村正一郎

矢部良策

栗のきんとん

山内神斧

生形貴道

点心 新橋「生野」鰻

葛西宗誠

佐伯江南齊

(司会) 今中

冬の麦酒 ほろにが通信 アサヒビール営業部

二九

名月と雨傘

丸尾長顕

三〇〜三一

砂糖に罪なし 双葉会九月例会記

M

三一〜三二

大阪の職方

B

三三

のどから手がでる

明治屋大阪支店調

三四〜三五

(二〇)〜(二二頁の食品写真の解説)

ウイスキーの香(海老原氏の研究)

B

三五

新国劇の手帖

はが・れいこ

三六〜三七

新小豆のお汁粉

三八

『あま・カラ』会員募集

三八

昭和二十六年十一月五日発行 第四号

表紙

一

目次

三

食ひしん坊(四)

小島政二郎

四〜七

めし党宣言

宮田重雄

七〜八

お菓子の名

北条 誠

九〜一〇

姑のおかげで

森田たま

一一〜一二

新派人甘辛往来

齊藤晴巳

一二〜一三

紅茶のお手前―鎌倉茶話会の記

丸尾長顕

一四

人生あまから像(松本佐多さん)

井上甚之助

一五

お店紹介(写真付き)

一六〜二二

『うづら』『寿司万』『松前屋』『小倉屋』『重の家』

『大寅』『善哉屋』

あまカラの記

吉田みなを

二三〜二四

七面鳥

前田栄三

二五

佐多女聞書(一)

井上甚之助

二六〜二九

あま・カラ通信

B・B・B・B

二九〜三〇

酒の取引所

小谷清一

三一

舞台しのぶ草 はが・れいこ 三二～三三

たまござけ B・B・B・B 三四

『あま・カラ』会員募集 三四

甘辛往来―『あまカラ』第4号別冊(アンケート) 一～二〇

朝比奈隆 阿部真之助 芥川也寸志 秋田 実

荒畑寒村 天津乙女 伊原宇三郎 岩田豊雄

伊志井 寛 伊藤良三 飯島幡司 岩井雄二郎

伊東深水 池部 良 浦松佐美太郎 宇井無愁

内田 誠 江崎利一 長田幹彦 岡本太郎 尾上松緑

沢潟久孝 河盛好蔵 門田 勲 春日野八千代

桂春団治 菊田一夫 北大路魯山人 喜多村緑郎

菊岡久利 邦村完二 黒田初子 倉島竹二郎

小島政二郎 小堀杏奴 小山いと子 勝太郎

木暮実千代 小林一三 児島善三郎 小牧近江

佐藤 敬 佐藤美子 向坂逸郎 斉藤茂吉 崎山正毅

榊山 潤 西条八十 寿岳文章 下村 宏 渋谷秀雄

清水三重三 下田吉人 菅原通齐 新村 出

薄田泣菫 千 宗室 千田是也 千 宗守 曾宮一念

田村駒次郎 高峰三枝子 高原慶三 田辺 至

田村泰次郎 辰野九紫 谷 桃子 高浜虚子

高橋邦太郎 団伊玖磨 寺尾威夫 徳川夢声

轟夕起子 中川紀元 中山晋平 中村直勝 中里恒子

新井 格 野村胡堂 原 吉平 馬場恒吾

長谷川幸延 服部良一 八馬兼介 長谷川 伸

平井房人 平林治徳 日野草城 古谷綱武

福田平八郎 福田豊四郎 藤森成吉 堀 文平

北条 誠 丸尾長頭 正宗白鳥 水谷川忠磨

宮城音弥 松林桂月 松永和風 春日とよ

市村羽左衛門 内田 巖 由起しげ子 渡辺常庵

鷺尾儼三 吉田健一 矢部良策 山本嘉次郎

本山荻舟 村山知義 向井潤吉 村松梢風 鍋井克之

森田たま 渡辺紳一郎 小汀利得 石井柏亭

歌沢寅右衛門 阿部静枝 井上 靖 花柳章太郎

下田将美 長門美保 福島慶子 藤蔭静枝 神西 清

古関祐而 坂本繁二郎 市川男女蔵 佐々木藤索

宮田重雄 樋口富麻呂 笠 智衆 昔々亭桃太郎

矢野目源一 尾上紫舟 安田勘弥 江口隆哉

昭和二十七年一月五日発行 第五号

表紙 一

目次 三

食ひしん坊(五) 小島政二郎 四～八

自分勝手 永井龍男 八～一〇

あこがれ 渋谷秀雄 一〇～一一

料理の芸 福島慶子 一二

秋の吹き寄せ(鎌倉茶話会の記) 丸尾長頭 一三～一四

こがらしの匂い よしだ・みなを 一五〇一六

人生あまカラ像 (湯木貞一氏) B・B・B・B 一七

京洛あまから函会 一八〇二八

『川端道喜』『瓢亭』『河道屋』正月の菓子

『かね正』『大市』『いづう』『辻留』

甘辛談議〔其の二〕朝比奈隆 船越かつ美 二九〇三一

吉田三七雄 前田栄三

『いせや』以後 弁 三一

平凡なもの 小島哲治 三三〇三三

本場のマカロニ 小村順之助 三三〇三四

文学と食味 荻野三治 三四

のめばたのしき話 前田栄三 三五

佐多女聞書 (二) 井上甚之助 三六〇四〇

甘辛往来 (つづき) 谷口千吉 佐々木信綱 四〇

布施信良 大辻司郎 今井豊之助

あま・カラ通信 M 四一

袖みそ B 四二

『あま・カラ』会員募集 四二

昭和二十七年二月五日発行 第六号

表紙 一

目次 三

食ひしん坊 (六) 小島政二郎 四〇七

お菓子随筆 村松梢風 七〇八

おすしの話 森田たま 九〇一〇

佳春庭移蘭 鎌倉 花鳥亭 一一〇一二

茶の湯のえちけつと 吉田三七雄 一三〇一四

ぷち・かいえ 福島慶子 一五〇一六

ふるさとの菓子「二」 文 中村汀女 一七〇一八

絵 江崎幸坪

人生あまから像 (上西得三氏) 大久保恒次 一九

お店紹介 (写真付き) 二〇〇二六

『なだ万』『堺卯楼』吉兆の前菜 (絵) 『吉野』

『喜多林堂』『菊正宗』の工場

甘辛談議〔其の三〕 今中豊三 常岡喜代 二七〇二八

団子談議 奥井復太郎 二九〇三〇

うどんは楽しき思い出 前田栄三 三〇〇三一

旧茶道論	大久保恒次	三一〜三二
佐多女聞書(三)	井上甚之助	三三〜三七
結解	飯島幡司	三八〜四〇
あま・カラ通信	E・M・O・O・O	四〇〜四一
『雑炊おくの細道』	B	四二
『あま・カラ』会員募集		四二

昭和二十七年三月五日発行 第七号

表紙		一
目次		三
食ひしん坊(七)	小島政二郎	四〜七
お菓子随筆	村松梢風	八〜九
通人の失敗	倉島竹次郎	九〜一〇
素人料理	中里恒子	一〇〜一一
友まちがひ	森田たま	一二〜一三
食物と五十年	前田栄三	一三〜一四
下種の舌	河内山五月	一四〜一六
初夢(鎌倉茶話会の記)	丸尾長顕	一六〜一七

舌頭抄	吉井 勇	一八
人生あまから像(木暮保五郎氏)	大久保恒次	一九
お店紹介(写真付き)		二〇〜二一
『甘辛のれん会』発会式(写真付き)		二二
ふるさとの菓子	文・中村汀女 絵・江崎孝坪	二三
卵が立つという話	吉田三七雄	二四〜二五
名物餅と容器	鈴木宗康	二六〜二七
硬から軟へ		二七
東西味くらべ	泉 源助	二八
こんぶ	悠眠亭	二九
あさくさのり	佐々木寛昌	三〇〜三二
味覚の科学		
―『味盲』の人がある―	藤森成吉	三三〜三四
菓子哲学序説		
あま・カラ通信		三五〜三七
なまふ	B	三八
『あま・カラ』会員募集		三八

昭和二十七年四月五日発行 第八号

表紙			一
目次			三
食ひしん坊(八)	小島政二郎		四〇七
辛い話	倉島竹二郎		八〇九
たべもの屋	北條 誠		一〇〇一三
めばりずし	戸塚文子		一三〇一五
辻留論	井口海仙		一五〇一六
お菓子な話	平井房人		一七〇二〇
続舌頭抄	吉井 勇		一九
人生あまから像(堀田吉夫氏)			二一
小鯛雀ずし(色刷)	山内金三郎		二二〇二三
辻留 吉兆対談	司会 山内金三郎		二四〇三一
	辻 嘉一 湯木定一		三七下段
いかもの	福島慶子		二八〇二九
味覚の科学	佐々木寛昌		三二〇三四
—食欲について—			
麦畑と酒と死と	吉田三七雄		三四〇三六

昭和二十七年五月五日発行 第九号

天津甘栗から五色の酒まで	前田栄三		三六〇三七
東西味比べ			
味噌	悠眠亭・泉 源助		三八〇三九
あま・カラ通信	B・E・M		四〇〇四一
たけのこ	B		四二
『あま・カラ』会員募集			四二
表紙			一
目次			二
食ひしん坊(補遺)	小島政二郎		三〇六
自炊記	里見 淳		七〇九
家	森田たま		九〇一〇
味覚三昧	吉井 勇		一一
果物天国	十河 巖		一二〇一三
吉兆 辻留対談	司会 山内金三郎		一三〇一四
前号の続き	辻 嘉一 湯木定一		
カツレツ事件	前田栄三		一五〇一六



金七拾円也

吉田三七雄 一六〇一七

昭和二十七年六月五日発行 第十号

ふるさとの菓子

文・中村汀女 一八  
絵・江崎孝坪

人生あまから像 (辻 嘉一氏) 大久保恒次 一九

名菓集 (双葉会) 山内金三郎 二〇〇二一

甘辛談議 二二〇二六

出席者 小島政二郎 大仏次郎 小林秀雄 永井龍男

吉屋信子 小山いと子 杉 葉子 今中善治

大久保恒次 山内金三郎

柿の葉鮓 谷崎潤一郎 二七〇二八

手料理の味 飯島幡司 二八〇三〇

味覚の科学【三】 佐々木寛昌 三一〇三三

『おなががすく』ということ―

東西味くらべ

おでん 悠眠亭 三四

関東煮 B 三五

あま・カラ通信 三六〇三七

鮎 B 三八

『あま・カラ』会員募集 三八

表紙

目次

食ひしん坊 (九)

小島政二郎 四〇七

食欲時代

渋谷秀雄 七〇九

食後

中里恒子 九〇一〇

行く雁

森田たま 一〇〇一三

人生あまから像 (杉本甚之助氏)

山内 一一

人生あまから像 (丹羽陸夫氏)

B 一二

菊池先生とお菓子の思ひ出

倉島竹二郎 一四〇一五

メダンのポト・フウ

高橋邦太郎 一五〇一九

甘辛竹枝

吉井 勇 一七

珍味発見

福島慶子 一九〇二〇

料理の学校

大久保恒次 二〇〇二二

インド・マカン

吉田三七雄 二二〇二四

酒から出た話

前田栄三 二二五

自炊記【二】

里見 淳 二二六〇二九

お店紹介 (写真付き) 米忠

三〇

ふるさとの菓子

文・中村汀女  
絵・江崎孝坪

三一

続甘辛抄

吉井 勇

一四

東西味くらべ

にぎりずし  
おしずし

悠眠亭

B  
三三

さかしら三題  
ひや酒

小村順之助  
吉田三七雄

一六〇  
一七〇

味覚の科学【四】

—『味について』—

佐々木寛昌 三四〇

東西味くらべ

悠眠亭

二〇〇

あま・カラ通信

たぬき汁

B  
三八

『あま・カラ』会員募集

三八

玩物喪志(二)アカハタヤマ (写真も)葛西宗誠 二二〇  
人生あまから像 (久保義一氏) 二四〇  
上方の鰻 (語る人) 柴藤治兵衛翁 二五〇  
(聞く人) 生野秀太郎 二七〇  
(聞く人) 早川菅次郎 二九〇

昭和二十七年七月五日発行 第十一号

表紙

一

甘辛談議

山内金太郎

三八〇

目次

三

酒の今は昔

伊藤秋雄

四〇〇

食ひしん坊(十)

小島政二郎

四〇

落ついたリンゴ

前田栄三

四二〇

一里玉

徳川夢声

七〇

味覚の科学【五】

佐々木寅昌

四三〇

水羊羹

小糸源太郎

九

—『味覚残像に就いて』—

唐草模様

森田たま

一〇〇

再録食ひしん坊

小島政二郎

四六〇

ウオトカとキャヴィア

吉村正一郎

一二〇

あま・カラ通信

五三〇

だいこんおろし

B

五四

うどん

B

二七

『あま・カラ』会員募集

五四

西瓜の種

吉田三七雄

二八〜三〇

昭和二十七年八月五日発行 第十二号

表紙

一

食ひしん坊(十一)

小島政二郎

三〜七

ひぼこんでりあく

うえのせいいち訳

七〜一〇

「十八世紀の料理論」

―一七七九年のロンドン・マガジンによる―

美食家

藤沢桓夫

一〇〜一一

吉兆ばなし

湯木貞一

一二〜一三

京土産のこと

井上甚之助

一四〜一六

人生あまから像(阿倍直吉氏)

F

一七

塩

(写真も)

葛西宗誠

一八〜一九

不昧公流

井口海仙

二〇〜二一

チヤイコウスキーと雲片糕

前田栄三

二二〜二三

東京 あちこち

吾八

二三〜二五

東西味くらべ

そば

悠眼亭

二六

味覚の科学【六】

―『嗜好物について』―

佐々木寛昌

三〇〜三四

甘辛往来

長谷川 伸

佐々木茂策

西崎 緑

岩井雄二郎

三五〜四四

本山 荻舟

村松梢風

山内金三郎

芝木好子

井上甚之助

寺田甚吉

渡辺常庵

由起しげ子

倉島竹二郎

吉田三七雄

河内山さつき

荒畑寒村

佐々木三味

長田幹彦

円地文子

森田たま

水谷川忠磨

阿倍真之助

小島政二郎

坂本繁二郎

北大路魯山人

伊藤忠兵衛

田村木国

曾宮一念

高橋邦太郎

内田 誠

鍋井克之

河村靖山

花柳章太郎

前田栄三

宮川蔓魚

鍋木清方

向坂逸郎

山本嘉次郎

菊岡久利

向井潤吉

佐藤美子

須田国太郎

小杉天外

菅原通済

井口海仙

中村直勝

奥野信太郎

中橋武一

田辺 至

志方勢七

小堀杏奴

長谷川幸延

諏訪根自子

湯川スミ

高浜虚子

石黒敬七

外岡松五郎

宮城音弥

古谷綱武

西山翠嶂

小林一三

あま・カラ通信

B

四六

素人かば焼

B

四六

『あま・カラ』会員募集

四六

昭和二十七年九月五日発行 第十三号

目次

食ひしん坊 (十二)

小島政二郎

二〇六

漬物の運命

戸塚文子

七〇九

信越ソバ紀行

松島雄一郎

一〇〇一

ふるさとの菓子

文・中村汀女  
絵・江崎孝坪

一一二

人生あまから像 (飯田進三郎氏)

B

一三三

玩物喪志 (三) 夏鹿 (写真も)

葛西宗誠

一四〇一五

東西味くらべ

秋刀魚

悠眠亭

一六

さば

B

一七

うまいもの

河合幸七郎

一八〇一九

悲しき塩鮭

前田栄三

一九〇二〇

贅六と生作

吉田三七雄

二一〇二二

お店紹介 (写真付き)

二三〇二四

南菱富 青山

みちのくあまカラ記

高橋邦太郎

二五〇二八

甘辛往来

黒川武雄

駒村資正

津村秀夫

丸尾長顕

上野精一

戸塚文子

柴田早苗

葛西宗誠

内田 巖

佐佐木寛昌

矢部良策

吉田健一

北尾鐘之助

伊原宇三郎

川上三太郎

下田吉人

下村海南

味覚の科学【七】

—食物の温度—

佐々木寛昌

三四〇三五

あま・カラ通信

松だけの傘焼

『あま・カラ』会員募集

B

三五

昭和二十七年十月五日発行 第十四号

表紙

B

三六

目次

食ひしん坊 (十三)

三六

映画の『のみくい』に就て

小島政二郎

吉村公三郎

四〇七

昔の味

中里恒子

吉井 勇

一一〇一三

甘辛双紙

吉井 勇

吉井 勇

一四

人生あまから像 (川崎重治郎氏) 大久保恒次 一五

『あま・カラ』 会員募集

三八

玩物喪志(四)立礼式 (写真も) 葛西宗誠 一六〜一七

南蛮饒舌 アルバレス 一八〜二〇

山家料理 森田たま 二〇〜二一

左橋無聴のこと 井口海仙 二二〜二三

食ひ物ざふ言 浜口陽三 二三〜二四

お店紹介(写真付き) 『一一』『いづもや』 二五〜二六

おぶ いいる 和氣律次郎 二七〜二九

浪華茶話会 吉田三七雄 三〇〜三一

夜泣きうどん 悠眠亭 三三

東西味くらべ トンカツ B 三二

牛肉 前田栄三 三四〜三五

かにとソーダビスケット 佐々木寛昌 三五〜三六

味覚の科学【八】

— 味覚の優劣に就て—

あま・カラ通信 三六〜三七

黒砂糖 B 三八

昭和二十七年十一月五日発行 第十五号

表紙 一

目次 三

食ひしん坊(十四) 小島政二郎 四〜七

満腹感 吉田健一 八〜一

カレー・ライスとライス・カレー 吉村正一郎 一一〜一二

好きなお菓子 吉屋信子 一三

続甘辛双紙 吉井 勇 一四

日本人が日本料理を食べられない話 福島慶子 一五〜一六

酔漢談義 吉井栄治 一六

松茸山異聞 吉田三七雄 一七〜一八

人生あまから像(薩摩きくさん) 大久保恒次 一九

お店紹介(写真付き) 『吉兆』『津の清』 二〇〜二一

玩物喪志(五)すだれ (写真も) 葛西宗誠 二二〇～二三

上方甘辛手帖「1」 (文) 大久保恒次 二四〇～二五

(画) 山内金三郎

夜鷹蕎麦 大河内信敬 二六〇～二七

味覚の科学【九】 佐々木寛昌 二八〇～二九

—食物と迷信—

東西味くらべ

アンコウ鍋

上方の鍋

米華事件

悠眠亭

『甘辛往来』を組にのせる 前田栄三 三三二

ハウザー・システム 北大路魯山人 三三三～三五

あま・カラ通信 B 三三六

だし雑魚つくだけ煮 M 三七

『あま・カラ』誌会員募集 B 三八

食ひしん坊(十五)

小島政二郎 四〇七

一番食べたいもの

獅子文六 七〇八

うで卵旅館

宮田重雄 九〇一〇

社員食堂の話

源氏鶏太 一一〇二

天使の髪の毛

福島慶子 一三

上方甘辛手帖「2」

(文) 大久保恒次 一四〇～一五  
(画) 山内金三郎

江戸前

小村順之助 一六〇～一七

やもめ料理

坂本 遼 一八〇～一九

なんでも焼く

(弁) 一九

禁酒・禁煙

吉田三七雄 二〇〇～二二

鼓舌小吟

吉井 勇 二二

人生あまから像(小谷権六氏)

大久保恒次 二三

『阪神甘辛のれん街』紹介

二四〇～二五

玩物喪志(六) 暗室 (写真も) 葛西宗誠 二六〇～二七

東西味くらべ

雑煮

悠眠亭 B 二八〇～二九

うどん

井口海仙 三〇〇～三一

「月の雫」に種がある

前田栄三 三一〇～三一

昭和二十七年十二月五日発行 第十六号

表紙

目次

一

三

味覚の科学【十一】

佐々木寛昌 三二～三三

—食欲を測る—

甘辛往来（アンケート）

三四～四四

浜口陽三 由起しげ子 長谷川幸延 中村研一

荒畑寒村 喜多村緑郎 丹羽文雄 足立源一郎

木村莊八 小堀杏奴 伊原宇三郎 長田幹彦

古谷綱武 渡辺常庵 下村 宏 木々高太郎

山内義雄 川上三太郎 山本嘉次郎 平山芦江

中村直勝 北條 誠 小野十三郎 福島慶子

内田 誠 子母澤 寛 深尾須磨子 飯島幡司

宮田重雄 井口海仙 伊藤忠兵衛 曾宮一念

渡辺紳一郎 高原慶三 古川緑波 佐々木三味

宮城音弥 井上友一郎 吉田三七雄 佐々木茂策

上野梅子 竹中 郁 前田栄三 菊岡久利 柴田早苗

式場隆三郎 戸塚文子 河盛好蔵 水谷川忠磨

斎藤茂吉 徳川夢声 坂本繁二郎 西条八十

本山荻舟 猪熊弦一郎 鴨下晁湖 野村胡堂

あま・カラ通信

四五

いのしし

四六

『あま・カラ』誌会員募集

四六

昭和二十八年一月五日発行 第十七号

表紙

目次

食ひしん坊（十六）

小島政二郎 四～七

満腹感（続）

吉田健一 八～一

菓子のことなど

内田 誠 一～三

続鼓舌小吟

吉井 勇 一四

人生あまから像（鳥井信治郎氏）

大久保恒次 一五

お店紹介『富久寿』（写真付き）

一六

大食ひの記（一）

倉島竹二郎 一七～一八

海の子 山の子

小寺健吉 一九～二〇

北海道の飯寿司

福島慶子 二〇～二一

お供日

森田たま 二二～二三

佐久間にて

邦枝完二 二四

新刊「お菓子の歴史」守安 正著紹介

B 二四

菓子舗『虎屋』の古いスケッチ紹介

二五

玩物喪志（七） 初詣（写真も）

葛西宗誠 二六～二七

上方甘辛手帖「3」

（文）大久保恒次 二八～二九

(画) 山内金三郎

或る正月 吉田三七雄 三〇〜三一

東西味くらべ

天麩羅

悠眠亭

すつぽん

B 三三

甘辛往来(アンケート)

三四〜三六

須田国太郎

吉原治良 小寺健吉 福原麟太郎

長谷川町子

寿岳文章 奥野信太郎 河村靖山

楠木清方

伊志井 寛 朝比奈 隆 魚返善雄

小島政二郎

あま・カラ通信

三七

うおすき

B 三八

『あま・カラ』誌会員募集

三八

昭和二十八年二月五日発行 第十八号

表紙

一

目次

三

食ひしん坊(十七)

小島政二郎

四〜七

ロッパ食談(一)

古川緑波

八〜一〇

アイスクリーム

森田たま

一〇〜一一

大食ひの記(二)

倉島竹二郎 一二〜一三

幼時の東京菓子

石井柏亭 一四〜一五

金澤の押寿司

福島慶子 一五〜一六

味覚の科学【十二】

佐々木寛昌 一六〜一八

―お酒について―

人生あまカラ像(小倉英一氏)

B 一九

阪神甘辛のれん街紹介(写真付き)

二〇〜二一

玩物喪志(八) 雪

(写真も) 葛西宗誠 二二〜二三

上方甘辛手帖「4」

(文) 大久保恒次 二四〜二五

(画) 山内金三郎

魯先生をくすぐる

並木 繁 二六〜二八

―甘辛往来の批評について―

赤味噌

鈴木宗康 二九〜三〇

にぎりめし

前田栄三 三〇〜三一

醤油の東と西と

X 三一

首回り十六インチ半の悩み

吉田三七雄 三二〜三三

東西うまいものや案内(一)

B 三四〜三六

あま・カラ通信

三七

さけのかす

B 三八



『あま・カラ』誌会員募集

三八

昭和二十八年三月五日発行 第十九号

表紙

燕京食譜

お店紹介 写真付き

『やぶ』『麩嘉』

あま・カラ通信

目次

上方甘辛手帖「5」

甘いもの物語

長谷川 伸

四〇五

鯉と鱒

長田幹彦

六〇七

河上博士閑居の図

吉村正一郎

八

詩歌集『ふるさと』を読みて

表紙

人生あまから像(川端裕美子さん)

K

九

玩物喪志(九) いなり札

(写真も) 葛西宗誠

一〇〇一

味覚の東と西と

小林一三

一二〇三

大食ひの記(三)

倉島竹二郎

一三〇四

御春寒

福島慶子

一五〇七

落花狼藉

吉田三七雄

一七〇八

東西うまいものや案内(二)

一九〇二

『笹の雪』 東

『大豊』 西

わうばく豆腐 羹

ロッパ食談(二)

古川緑波

二二〇三

(文) 大久保恒次 二四〇二五  
(画) 山内金三郎

奥野信太郎 二六〇三七

三二〇三二

昭和二十八年四月五日発行 第二十号

目次

食ひしん坊(十八)

小島政二郎 四〇七

胃袋の話

福島慶子 七〇九

湯沸し第一号

中村直勝 九〇一

甘くも辛くもない「かね」の味

三枝博音 一二

人生あまから像(小島丈右エ門氏)

一三

玩物喪志(十) 春ひらく

(写真も) 葛西宗誠

一四〇一五

駄菓子をどうぞ

本山荻舟

一六〇一七

ロッパ食談(3) 洋食衰えず

古川緑波

一八〇一九

大食ひの記 4	倉島竹二郎 二〇〇～二二一	食ひしん坊 (十九)	小島政二郎 四〇～七
東西うまいものや案内 (二三)	豊田三雄 二二二～二二三	淡交記	吉村正一郎 八〇～九
言問団子 桜餅	アストリア	薬と毒	魚返善雄 一〇〇～一一
上方甘辛手帖「6」	(文) 大久保恒次 二二四～二二五	胃袋の話「二」	福島慶子 一一〇～一二三
	(画) 山内金三郎	カツパン健在	森田たま 一三三～一四
CHEESE	前田栄三 二二六	人生あまから像 (植田貢三氏)	B 一五
お店紹介 写真付き	二二七～二二八	玩物喪志 (十一) 金魚	(写真も) 葛西宗誠 一六〇～一七
『かめすえ』『平八』			倉島竹二郎 一八〇～二〇
印度人とコーヒー	吉田三七雄 二二九～三三一	大食ひの記「五」	古川緑波 二〇〇～二二
ふくとの思ひ出	山川二吉 三二一～三二二	ロッパ食談 (四)	吉田三七雄 二二二～二四
季節感	阪本 遼 三二二～三二四	味気な記	和気律次郎 二二七～二九
あま・カラ通信	三四～三五	お店紹介 写真付き	龍動食譜
監獄料理	荒畑寒村 三六〇～三七	『千丸屋』『聖護院八ッ橋』	和気律次郎 二二七～二九
さかしほ	B 三八	点心東西	ゴリーン・カウ 美佐古 三三〇～三一
『あま・カラ』会員募集	三八	上方甘辛手帖「7」	(文) 大久保恒次 三三二～三三三
			(画) 山内金三郎
昭和二十八年五月五日発行 第二十一号		桑氏の胃袋	前田栄三 三四
表紙	一		
目次	三		

あま・カラ通信

三五～三七

甘辛相談

三八

『あま・カラ』会員募集

三八

昭和二十八年六月五日発行 第二十二号

表紙

一

目次

三

食ひしん坊 (二十)

小島政二郎

四～七

旅と食べもの

吉田健一

八～一

淡交記 (二)

吉村正一郎

一二～一四

胃袋の話 (三)

福島慶子

一四～一五

龍動食譜 (2)

和氣律次郎

一六～一八

人生あまから像 (亀屋伊織氏)

B

一九

玩物喪志 (十二) 粽 (写真も)

葛西宗誠

二〇～二二

牛めしの道

菊岡久利

二三～二四

お店紹介 写真付き

『たくみ』 阪神百貨店甘辛のれん街の

『鶴屋八幡』

直売店

二五～二六

点心東西

二七～二九

銀座のてんぷら にしんそば

大食ひの記 [六]

倉島竹二郎

二九～三一

ロツパ食談 (五)

古川緑波

三一～三三

上方甘辛手帖 [8]

(文) 大久保恒次

三四～三六

(画) 山内金三郎

泥ゆであづき兵隊

吉田三七雄

三六～三八

興福院清菜

眼耳鼻舌会

三八～三九

あま・カラ通信

四〇～四一

甘辛相談

四一～四二

『あま・カラ』会員募集

四二